

## 議会報告会実施報告書

開催日時	平成 30 年 11 月 10 日 午後 3 時～午後 4 時 30 分	開催会場	姫治地区センター
出席議員	澤野 伸・伊藤 壽・伊藤健二・勝野正規・中村 悟 大平伸二・川上文浩・酒井正司・天羽良明		
班長	伊藤 壽		
参加者数	24 人		
実施内容	議会のトピラにより主に平成 29 年度決算について議員が説明し、その後今回の共通テーマである「災害への備え」を始め、市、地域の課題等について意見交換を行う。		
質疑および 主な意見等	<p>&lt;1グループ&gt; 報告者 <u>伊藤健二</u> 記録者 <u>勝野正規</u></p> <p><b>テーマ</b> 「災害への備え」</p> <p>『総務企画委員会所管分』 「災害情報の伝達について」 ・行政無線による火災放送は中止になり、市民の情報収集の後退になり残念である。防災メールを受け取れない人の割合の把握はあるのか。 「水位計について」 ・河川の水位計の設置場所はどのようにして決められたのか。(姫川には無い) 「非常用備蓄品について」 ・避難所の備蓄品は十分か。(地域防災計画資料編にて説明及び自らの備蓄の必要性を説明) ・公的備蓄品は必要不可欠であるのは理解するが、行政責任としてその処理の対応を明確にすべきである。(乾パン等は防災訓練時に配布されているが、水はどのように処理されているのか。 ・備蓄品は非常に過酷な中で保管されているが、途中でサンプリング(特に水)検査などは行っているのか。</p> <p>『建設市民委員会所管分』 「河川の浚渫について」 ・姫川と久々利川の合流地点の土砂浚渫は、災害に備えて常に対応すべきである。 「草木の焼却について」 ・市道法面の除草を個人的に行うが、最近では燃やすことも苦情がきてできない状況である。市としての対応を示されたい。</p>		

**テーマ** 「災害への備え」

『総務企画委員会所管分』

「消防予算について」

- ・ 消防予算が少ない。心配だ。

「危険個所の指定について」

- ・ 危険個所の指定は、どんな技術的根拠があってしているのか。

「ハザードマップについて」

- ・ ハザードマップは各部署から出されていて統一した物があるといい。
- ・ 学校が作るハザードマップは地域を無視している。地域との連携をとって欲しい。

「災害情報の伝達について」

- ・ メール等の使用できない人等にどうやって災害情報を伝えるのか？防災無線の活用あった。
- ・ テレビのテロップで流れるようにするといい。

「要支援者名簿について」

- ・ 何年か前に発災時の要支援者情報の収集を行ったが現在どうなっているのか。個人情報保護の観点から活用できない。

「消火栓について」

- ・ 消火栓は地元住民でも活用できるのか。誰が管理するのか。

「自主防災組織について」

- ・ 自主防災組織では防災グッズを購入すると市から補助金がでる。無駄な購入があるのでは。管理をしっかりとってほしい。

「防犯カメラについて」

- ・ 防犯カメラの設置をしてほしい。

『建設市民委員会所管分』

「商工政策について」

- ・ 商工関係予算が少ない。もっと商工関係に力を入れるべきでは。

「子育て健康施設マーノについて」

- ・ マーノの利用状況は。利用者少ないのでは。もっと庶民的な施設ならないか。

「危険地区の指定について」

- ・ 姫治地区は砂防指定地域といわれたがどういう意味か。地区センターもレポートも地区内あるが大丈夫か。

『その他』

「議会広報紙について」

- ・ 議会のトビラP4下段円グラフ内、%ではなく金額で表示してほしい。

<3グループ> 報告者 川上文浩 記録者 伊藤 壽

**テーマ** 「災害への備え」

『総務企画委員会所管分』

「非常用電源の確保について」

・姫治地区は、山が高くなく大きな川も無いので被災するところは限られている。避難する人は少ないと思う。停電の時灯りをどう確保するのか。姫治地区の体育館はそうになっていない。

・第1避難所については、電気だけは確保して欲しい。

・地震での停電の際、避難所の電気は考えておく必要がある。

・地区センターに非常用の発電設備はあるか。

・市の年次計画で、地域にとってどの程度の非常用発電設備が必要か考えて欲しい。

避難所への避難について」

・青木地区では、姫川が氾濫した場合、青木集会所ではなく姫治地区センターまで来なくてはならない。

「防災無線について」

・防災無線の放送は、多治見市の放送が聞こえ可児市の放送は聞こえない。

・避難放送は雨の時は聞こえない。高齢者は特に聞き取り難いので、ラジオがあったらどうか。

・防災無線の放送は女性の方が聞き易い。

「防災訓練について」

・防災訓練の内容が乏しい。

「要援護者名簿について」

・要援護者名簿の対応も難しいので、再検討が必要である。個人情報となると何ともならないので被害者は困る。

「基金・借入金について」

・市の基金は妥当か。議員も注視すること。災害対応する額は必要である。

・借入金はどうか。

「防犯カメラの設置について」

・防犯カメラの設置には1台80万円位かかり、何とか市において設置できないか。

『建設市民委員会所管分』

「耐震化助成について」

・集会所の耐震化をすとなると見積だけで100万円かかるが、これに対する市の助成はない。見積についても助成できないか。

・集会所においても耐震診断に個人の住宅と同じ様に助成がないか。

「河川の浚渫について」

・河川の土砂の堆積により災害の発生の可能性があるので堆積した土砂は年次計画的に除去しなければならない。

・可児川は定期的に浚渫されているようだが、小河川の暗渠部分の土砂の堆積状況が分からないので課題である。

「災害復旧自費工事への助成について」

・8月11日の大雨で住宅の敷地が崩落した。防護工事は自分で対応せざるを得ないので負担であるので資金的な支援はないか。例えば、固定資産税の減免とか貸付金とかである。

「農業用施設の維持管理について」

・水路など農業用施設の維持管理が難しい。

・優良農地の保全と住宅地などへの転用の問題がある。

・用水路は補助があるが、排水路については整備が遅れている。排水路にも市の負担があると良い。

「小学校の規模と住宅開発について」

・旭小の規模縮小を防ぐためにミニ開発を許可していく必要があるのではないか。

<4グループ> 報告者 酒井正司 記録者 天羽良明

テーマ「災害への備え」

『総務企画委員会所管分』

「情報伝達について」

・火災放送中止については、情報弱者を増加させないように代替システム  
の周知の徹底  
・行方不明者放送等で活用し続けるならスピーカーの方角の調整も随時行う  
こと。

「災害情報伝達と河川決壊懸念について」

・関市の河川決壊のようなことは、どこで起きてもおかしくない。県が久々利川に水位計を設置した。久々利川と姫川の沿線に居住しているので、水位計の情報を避難行動に移せるように、活かされた情報になるよう活用されたい。

あわせて、河川の同場所（久々川と姫川の合流点付近）の土砂浚渫を早急にすべきだ。

・河川に関する要望の市の回答が、県が国がとあるが、伝えてどうなっていくか市で責任をもった対応をすべきだ。

「自衛手段について」

・災害への備えは、

① 家具のない部屋で寝る。枕もとに靴をおいて寝る。

② 水を2リットル6本常備して、定期的に3本入れ替える。

③ カセットコンロを用意している。

④ 家のあちこちに飴玉をおいて、家具が倒れて動けなくなってもしのぐように常備している。

- ⑤ 地震が来たら玄関に逃げる。
- ⑥ 非常食もおいしいものをそろえておく。
- ⑦ おんぶ作戦の実行。
- ⑧ 持出しカバンが欲しい。  
など。

「防災訓練について」

- ・防災訓練は、各自治会長中心に熱心に行ってはいるが、住民の意識向上につながっているか自問自答しているうちに任期が終わる。
- ・内容は、いいのか、他の例を見たことがない。
- ・同日開催であるので他自治会、他地域（帷子、久々利、清水ヶ丘、桜ヶ丘）の訓練を見学することができない。
- ・どのように分業しているかを学び、実践的な組織をつくるポイント、防災意識向上を実現するため行政から指導を受けたい。

『建設市民委員会所管分』

「災害情報伝達と河川決壊懸念について」（総務企画委員会分と重複）

- ・関市の河川決壊のようなことは、どこで起きてもおかしくない。県が久々利川に水位計を設置した。久々利川と姫川の沿線に居住しているので、水位計の情報を避難行動に移せるように、活かした情報になるよう活用されたい。あわせて、河川の同場所（久々川と姫川の合流点付近）の土砂浚渫を早急にすべきだ。
- ・河川に関する要望の市の回答が、県が国があるとあるが、伝えてどうなっていくか市で責任をもった対応をすべきだ。

平成30年11月16日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 姫治地区センター会場 班長 伊藤 壽